

## 第三者評価結果報告書

### ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

### ②施設・事業所情報

名称：根岸すみれ保育園	種別：地域型保育事業（居宅訪問型保育事業除く）
代表者氏名：佐藤 由梨	定員（利用人数）： 19名（20名）
所在地：〒235-0008 横浜市磯子区原町13-10 アブニール根岸1階	
TEL：045-374-5558	
ホームページ： <a href="http://center.jp.com/negishi/">http://center.jp.com/negishi/</a>	

### 【施設・事業所の概要】

開設年月日	2019年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）	株式会社センター		
職員数	常勤職員： 8名	非常勤職員（嘱託員等含む）：	7名
専門職員	保育士 11名	社会福祉士	1名
	幼稚園教員免許 5名	養護教諭免許	1名
施設・設備 の概要	(居室数)	(設備等)	
	保育室2室、調理室1室、事務室兼医務室1室、職員休憩室1室	冷暖房等	

根岸すみれ保育園は、横浜市小規模保育事業A型として、2019年4月から株式会社センターが開設・運営しています。JR京浜東北線根岸駅から徒歩7分程の、主要道路の沿線に立地し、園の近くには「横浜プールセンター」や「磯子・海の見える公園」、横浜市指定有形文化財「根岸なつかし公園（旧柳下邸）」など、自然や歴史に触れることのできる名所・史跡もあります。建物は6階建てマンションの1階部分を使用し、出来るだけ室内を区切らず、子どもたちが広々とした空間で、元気にのびのびと過ごせるようにしています。

定員は19名（0歳児～2歳児）で、保育園の利用時間は平日（月～金）が7:00～19:30、土曜が7:00～18:00となっています。

### ③理念・基本方針

#### 理念：

- ・子どもの最善の利益を第一目的とし、最高水準の保育の質を追求し、維持します。
- ・保護者や地域社会から信頼される保育所を運営します。
- ・質の高い保育所の運営を長期的に実施できる体制を構築します。

#### 基本方針：

- ・創意工夫により、常に改善を行い、保育の質を継続的に向上させます。
- ・経営力と創意工夫により、保育の質の維持・向上とスリムな経営体制を両立させます。
- ・従業員がストレスなく、長期に勤務できる労働環境を整備します。

#### 保育目標：

健康で情緒の安定した子ども

### ④施設・事業所の特徴的な取組

- ・根岸すみれ保育園では、保育所保育指針に基づき、子どもの最善の利益を第一に考えています。
- ・「健康で情緒の安定した子ども」を保育目標にし、心身共に健康でいられるよう一人一人の状況に合わせた保育を心掛けています。

- ・集団保育と、一人一人に合わせた保育は、矛盾していますが、全職員で、その子にとって何が1番大切なのかを常に考え、保育を行っています。
- ・集団保育での規則正しい生活と友だちとの関わりという最大のメリットを活かしつつ、その中で一人一人がどのように過ごしていくかを考えて保育することを大切にしています。
- ・職員配置を手厚くし、乳児期に必要な大人との愛着や信頼関係を形成し、落ち着いて安心して過ごせるような環境づくりに力を入れています。
- ・離乳食やトイレトレーニングは、月齢で進めていくのではなく、成長や家庭の状況に合わせて、また、保護者の方との連携を大切にしながら進めています。
- ・日々の生活では、年間を通して薄着で過ごす事、散歩で歩く事を心掛け、健康促進につなげています。
- ・災害時の備えとして、月1回の避難訓練では火災、地震、津波を想定した訓練の他、近くに流れる川の氾濫を想定しての訓練や、不審者侵入を想定した訓練も行っています。食料等の備蓄品の準備もしています。

### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月17日(契約日)～2023年3月23日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	1回

### ⑥総評

#### ◆特長や今後期待される点

##### 「特長」

#### ●子ども一人ひとりの個性を尊重した保育を実践しています

園の特徴に「一人一人に合わせた保育」を掲げ、ホームページに明示しています。小規模園の特性を生かし、保育士が子ども一人ひとりと丁寧に向き合いながら、子どもの個性や特長を伸ばす保育を実践しています。職員会議で各々の子どもの状況を共有するとともに、各々の年齢や発達段階に応じた遊びや活動ができるよう、年間指導計画や月案に反映するほか、子ども全員に対し個別支援計画を作成して、個性を尊重した関わりを行っています。アレルギーのある子どもには、食事のトレーや食器、テーブルダスター等を区別し、担当する保育士も色違いの専用エプロンを着用して対応するなどの配慮を行っています。グループ活動が苦手な子どもに対しては、個別に対応を実施するほか、疾患や障がいのある子どもの対応について園内研修を開催し、園全体で対応の共有を図るなど、職員が相互に連携して保育を行う体制を構築しています。保育士の見守りのもと、子どもたちはそれぞれの表情やことば、動作等で自身の思いを表現し、のびのびと園の生活を楽しむ様子が見られています。

#### ●様々なマニュアルを整備し、職員間で共有・活用して保育の質の標準化を図っています

園では、理念や基本方針に「最高水準の保育の質の追求」や「保育の質の継続的な向上」を明示し、職員の経験年数や勤務形態に関わらず一定以上の水準で保育サービスを提供できるよう、様々なマニュアルを整備し、職員間で共有・活用して業務の標準化を図っています。保育実践や保護者対応など直接支援に係るものから、災害、事故、感染症対応など実務に即した各種マニュアルを園長が自ら作成し、全職員に配布して周知を図っています。また、年度当初の職員会議で園内研修を兼ねて読み合わせを行い、業務手順の確認を通じて共有化を図るほか、随時最新情報や職員の意見を取り入れて随時追記や改訂を実施し、内容の充実化に努めています。記録用紙や保護者向け案内文書等の各種様式についても、記載時の考察や配慮事項とともに、記載例も併記して、職員ごとの記述内容に差異が生じないよう配慮するとともに、必要に応じて個別に助言・指導し、各職員のスキル向上に尽力しています。このような業務共有化の取り組みは、職員全体の資質を高めるとともに、相互の連携強化や個々の意欲の向上にも繋がっています。

## 「今後期待される点」

### ●さらなる地域交流の推進に向けた取り組みが期待されます

園では、運営方針に「地域社会から信頼される保育所の運営」を掲げ、地域交流の積極的な推進に努めています。また、運営委員会でも「子ども達の笑顔を地域に届ける活動」に継続して取り組むことを表明し、区主催の作品展に園児の作品を出展するなど、可能な範囲で地域との交流機会の確保に努力しています。

一方で、コロナ禍の影響から、地域交流やイベント参加の多くを休止せざるを得ない状況が続き、現時点では地域との交流活動は限定的となっています。

今後は、保育の質向上や運営の透明性確保、園の機能や特色を生かした地域貢献などに鑑み、ボランティアの導入や学校教育への協力、地域の関係機関との連携強化等、さらなる地域交流の促進に向けた取り組みが期待されます。

### ●中長期的なビジョン及び各年度事業を明確化し、職員間で共有するための計画策定が望まれます

園では、運営方針の理念及び基本方針として、「質の高い保育所の運営を長期的に実施できる体制の構築」とともに、「常に改善を行い、保育の質を継続的に向上させる」ことを明示し、実現に向けた様々な取り組みを行っています。一方、運営会社の方針から、園として中長期的及び単年度の事業計画の策定は行っていません。

日々刻々と変化する社会情勢や、先行き不透明な児童福祉の現状においては、将来的な見通しを立てることが困難な状況ですが、常に改善を図り、継続的な質向上を推進するためには、施設・設備や人材確保・育成、少子化や虐待防止など、今後想定される状況や社会的ニーズに応じた中長期的なビジョンを明確化するとともに、各々の取り組みを年度別に細分化してPDCAサイクルに沿って着実に実行する仕組みづくりが重要と思われます。また、計画を明示し共有することで職員間の共通理解が深まり、組織的に改善を推し進める効果も期待できると考えられます。

## ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受け、職員と共に園の保育を振り返る良いきっかけとなりました。

普段、当たり前のように行っていた事の重要性をあらためて感じ、今まで以上に日々の保育の中で一人一人の子ども達と丁寧に関わる事を大切に、精進していきたいと思えます。

今回の結果でみえた新たな課題には真摯に向き合い、職員と協力しながら、より良い保育を目指していきたいと思えます。

また、利用者アンケートでの、保護者の方々からの温かいお言葉や、調査員の方々からの前向きなコメントは、とても励みになりました。

関係機関の皆様、ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

根岸すみれ保育園  
園長 佐藤 由梨

## ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり